

# アルヘンティーナ Argentina

社団法人日本アルゼンチン協会 会報

No.34

2001年10月

アルゼンチン経済 .....	1	日本人とアルゼンチン人 .....	7
帰任の木島大使にきく .....	4	ボルヘスと芥川龍之介 .....	9
渡邊新大使の見るアルゼンチン .....	5	岡山のタンゴ .....	10

## 明かりは見えるのか アルゼンチンの経済危機

小林 晋一郎

新興市場国の中でリスク要因としてトルコとアルゼンチンが市場の注目を集めている。アルゼンチンの為替切下げと政府債務の不履行が迫っていると報道も見られる。問題の背景、危機発生の経緯、国際金融支援とアルゼンチン政府の対策について纏めてみた。

### 1) 兌換法のジレンマ

アルゼンチンは1991年4月に兌換法を施行、10年間に亘りマクロ経済政策の基本としてきた。兌換法は、通貨の発行に外貨準備の裏付けを与えることにより信頼される通貨の創設を目指したことと、ペソと米ドルの交換を1米ドルに対し1ペソで保証した固定相場制の二つの側面を持っている。財政赤字補填のための通貨発行の道を閉ざした結果、インフレは急速に収束し経済の安定に大きく寄与した。兌換法施行当初は財政赤字も解消されるとの思惑があった。しかし、財政赤字が続き内外での国債発行により財政赤字はファイナンスされた。固定相場制の下でペソ高が進み工業製品を中心に輸出競争力が低下、貿易収支が悪化し、貿易収支・経常収支の赤

字には対外借り入で対応した。この様に、兌換法の下で公的債務・対外債務の増大が続いた結果、対外債務指標は年々悪化、市場にアルゼンチンの対外債務の維持可能性につき懸念が底流として存在した。

### 2) 危機の背景

デ・ラ・ルア現政権は急進党とフレパソの連立政権として1999年12月に発足したが政権基盤が弱体である上、大統領の指導力・健康が問題視された。労働法疑惑を巡る副大統領（フレパソ）の辞任を契機として連立の危機、政治不安が発生した。現政権は前政権からの財政赤字を負の遺産として引継ぎ、IMFに約束した財政赤字目標を達成するため就任早々、公務員の給与引き下げ、増税などの緊縮政策を採用した。1999年初めのブラジル通貨切下げの影響に伴う景気後退から漸く立ち直り始めたアルゼンチン経済は緊縮政策の結果、再び景気後退、1999年からマイナス経済成長が続いている。政治不安に景気回復の遅れが複合的要因として働き市場にはアルゼンチン不信症候群が発生した。

### 3) 危機の発生と対策

2000年10月、副大統領の辞任を巡る政治不安から危機が顕現、アルゼンチンの債務不履行の懸念が一挙に強まり国債価格が暴落、カントリーリスクの指標として使われるアルゼンチン国債の利回りと米国債との利回りの差が急拡大した。12月に債務不履行の懸念を払拭すべくIMFを中心に総額397億ドルの国際金融支援が成立した。2001年3月にマチネア経済大臣が更迭され、ムルフィが大臣に就任したが、発表した大幅な歳出削減策に対し支持を得られず孤立、辞任を余儀なくされた。その後任として、兌換法を導入した当時の経済大臣であったカバロが危機打開の切り札として経済大臣に就任した。カバロ大臣は財政収支改善のため税収強化策と共に競争力強化を目指し成長に軸足を移した諸施策を採用した。米ドルのみにリンクしている為替相場制度を米ドルとユーロの両通貨にリンクする拡大兌換法を導入、米ドルとユーロが等価になる時に施行することとした。拡大兌換法が施行されるまでの間、石油を除く貿易決済のため米ドルとユーロの対米ドル相場から算出する収斂係数を適用、輸出競争力を向上させた。他方で財政赤字解消の施策として7月、財政赤字ゼロ法が成立、月ごとの歳出と歳入を均衡させることを制度化した。この法律を適用して8月から年金と公務員の給与が13%削減された。

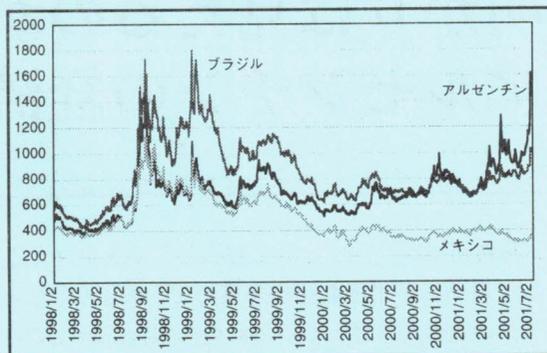
また、8月にIMFの追加金融支援80億ドルが決まった。

### 4) 現状

国際金融支援と政府の諸施策にもかかわらず、米国での同時テロ攻撃から米経済・世界経済の不透明感も重なり、アルゼンチン国債の市況は回復せず株価も下落を続けている。諸施策が実行され成果が現れ、輸出が拡大し景気が上向きに転じ、市場の信認回復が待たれる。

(こばやし しんいちろう 当協会理事、東京リサーチセンター研究理事)

「カントリーリスク・プレミアム」



(註) 各国の国債利回りと米国債の利回りとの差を示す、単位はBPで100分の1%

## ドキュメント

# 最新アルゼンチン情勢

～政治・経済の主な出来事～

小林 晋一郎

財政赤字ゼロ政策の決定、IMFの追加融資の実行にもかかわらずアルゼンチンに対するマーケットの不安は沈静化せず、依然として不安定な状況が続いている。

### 「IMFの追加融資」

アルゼンチンに対する信用補強を目的にIMF

理事会は9月7日、アルゼンチンへの追加金融支援80億ドル供与を決定、内50億ドルは9月10日に融資が実行された。残りの30億ドルは既存の対外債務再編のために利用される予定。

### 「財政赤字ゼロ政策」

財政再建の切札として7月30日に徹夜国会で審議の結果、赤字ゼロ・財政調整法が成立、毎月の歳出を歳入の限度内で財政を運営し、財政収支均衡を制度化した。早速、8月から公務員給与・公的年金の13%削減を実施した。

### 「今年の経済成長率見通しの修正」

2001年第2四半期の実質GDP成長率は前年同

期比でマイナス0.5%、上期累計では前年同期比でマイナス1.3%となった。第2四半期の国内投資は前年同期比でマイナス6.3%、国内消費はマイナス2.1%となった。年後半も、財政収支均衡化に向け厳しい財政支出削減を余儀なくされていることから、政府は2001年の成長率をプラス2.0%からマイナス1.4%へ下方修正した。

#### 「貿易収支」

内需低迷に伴う輸入の落ち込みが顕著となっている。輸出も一次産品価格の下落に伴い伸び率が低下しているが、貿易黒字は前年比で増大している。

	単位 (億ドル)		
貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
2000年1-7月	154	144	10
2001年1-7月	158	132	26

#### 「失業率」

景気低迷を反映して、失業率は2000年10月の14.7%から2001年5月には16.4%へと悪化した。

#### 「預金不可侵法」

8月22日、政府が経済危機の状況で預金凍結などの措置をとることを禁じた預金者保護を目的とした預金不可侵法が成立した。最近の預金流出の

一因となっている預金凍結への不安を取り除き預金の回復を目的とした。

#### 「パタコン債」

厳しい財政状況の続くブエノスアイレス州は、公務員給与、年金、政府調達業者などへの支払いの一部をパタコンと呼ばれる州債で行った。これに対し、連邦政府は各州が独自の州債を発行することを抑制するため、全州で使用可能な統一的債券LECOPを発行する構想を明らかにした。

#### 「英ブレア首相のアルゼンチン訪問」

8月1日、ブラジル領内のフォス・ド・イグアスで英国、ブラジル、アルゼンチンの3カ国首脳会談が実施され、その後アルゼンチン領内で英国・アルゼンチン両国の首脳会談が行われた。1982年のフォークランド紛争以来、初めての首相の訪問であり、首脳会談ではフォークランド問題には触れず、英首相からアルゼンチンの財政赤字ゼロ政策への支持表明があった。

#### 「道路封鎖」

8月7日、財政赤字ゼロ政策に反対し労働者・失業者は全国的規模で道路封鎖を行い抗議した。労働総同盟CGTは8月29日、経済政策に反対し抗議デモを行った。

## Patacón 何?

福島 穆

近着の「らぶらた報知」紙によりますと、財政難に喘ぐブエノスアイレス州が、州公務員の給料の一部を「パタコン」と称する公債で支払い始めたとのこと。公債はすぐに現金化すると割引かれるし、そうかといっただと持っていたとしても、いつ価値が下落するかもしれない、受け取る方には何ともやりきれない話であります。しかしそこは抜け目のないアルゼンチンのこと、この公債を受け取りましょうという外食産業

や、映画館などが早速、名乗りを上げているとのこと。もっとも額面通りの価値ではなく、ある専門家の推計では目下のところ平均7%程度の割引だそうです。

ちなみに、手元の辞書を見ますと"patacón"「パタコン」とは、「昔の銀貨、ペソ(金貨)」とありまして、何でも19世紀にアルゼンチンで流通した通貨だそうです。財政赤字では昨今世界に冠たる(?)我が国もいつまで対岸の火事と見物できるでしょうか?明日は我が身とか、何とも気になる「パタコン」の行方があります。

(ふくしま あつし、当協会編集委員)

# 変わるアルゼンチン人

## 木島前駐アルゼンチン大使に聞く

—タンゴもよく聞きましたね。多くの店に行きましたが、ビエホ・アルマセンが比較的多かったと思います。圧巻だったのは昨年12月、デラルア大統領の就任記念のときだったかとおもいますが、タンゴ・コンサートがコロソ劇場で開催されました。招待客だけで3つのオーケストラと豪華な踊り手の公演でした。オペラの殿堂でのタンゴ・コンサートは珍しいですね。デラルアさんは肩苦しいのが嫌いな人なので、服装は平服でした。

—7月18日にトヨタの工場で新型モデルの発表会があり、デラルア大統領とカバロ経済大臣が参加され、一緒に「鏡割り」をしました。私はアルゼンチン経済はいま苦しい状況にあるが長期的には回復すると確信している、日本の自動車メーカーは他国のメーカーと違って投資した土地で共に生きてゆく哲学を堅持するものだ、と強調したところ、翌朝の各紙は一面に大きく写真入りで取りあげていました。

—アルゼンチンの経済はいま、大変な苦境に立っていますが、なんとか切り抜けていくものと見ています。IMFや各国の支援を受ける一方、公務員の給料や年金を13%カットするとともに徴税を徹底してきましたので、中長期的には必ずや持ち直すものと思います。アルゼンチン人は変わりつつあります。歴史始まって以来のダイナミズムがやっと生まれてきたように思えます。

—アルゼンチンへの中国の大攻勢はめざましいものがあります。デラルア大統領の中国訪問、江沢民国家主席のアルゼンチン訪問、中国政府各省の局長があいついで現地を訪問しています。キーワードは一つ、食料安全保障です。わが日本の動きはほとんどゼロで、アルゼンチン側からはジャバリーニ外相が訪日しただけです。欧米各国はもとより台湾、韓国



斎藤協会会長と木島前大使（右）

もアルゼンチンの肥沃な土地を買い付けています。

—今年8月まで3年4ヶ月のアルゼンチン勤務は多忙ななかでも充実したものでした。98年に赴任してすぐ日ア修好100周年の式典をはじめ多くの行事が成功裡に実施できたことは良い思い出です。この機会に多くの友人ができました。

妻も趣味のパイプオルガンの練習、内輪のコンサートを存分に楽しむことができたようです。五月広場にあるカテドラル(大聖堂)で友人を招待してバッハの名曲などを演奏し、文化水準の高いアルゼンチンならではのことに感謝しています

—先日の同時多発テロが「文明の衝突」であるのか否かは別として、21世紀はこの種事件があちこちで発生する可能性があるといわれています。このような新しい局面では、それを極力回避する有効な方策として二国間を結ぶ民間レベルの友好協会の役割があらためて認識されるようになりました。日本とアルゼンチンのつながりを、これからもより確かなものにするために協会の皆様のご協力を期待します。

(聞き手 野村秀治 専務理事)

## 渡邊アルゼンチン大使赴任

新しくアルゼンチン駐在大使に任命された渡邊俊夫大使が8月アルゼンチンに赴任した。

渡邊大使は、昭和41年外交官試験合格、42年外務省に入り、中近東第二課長などのあと、ジュネーブ軍縮会議日本代表部公使、ベルギー公使、ブラジル公使を務め、平成8年から3年間マダガスカル大使兼モーリシアス大使兼コモロ大使であった。

ブエノスアイレス着任直後の渡邊大使にきいた。

— かつて勤務されたどこかの町と雰囲気が似ているところがありますか。

「9月19日にデ・ラ・ルア大統領に信任状を奉呈したあと、アルゼンチン政府・民間の関係者や各国大使に挨拶するため、街中を毎日走り回っております。ブエノスの街は、私がかつて勤務した街の中ではベルギーのブラッセルと似ていると思います。歩道に犬の糞が多いところはパリのようです。」

— アルゼンチン経済困難の中で町の人々の表情はどうですか。

「短い滞在で人々の表情の変化を言うことはできませんが、市内中心部でふだん見かける人々に関しては暗い感じはあまりしません。」

— テンポがゆっくりしていることに悩まされませんか。

「身分証明書の取得などの手続きがかなり遅い感じはします。また、役所の手続きが遅いのはある程度予想していましたが、民間の会社から自動車を買うのにも随分時間がかかるの

で驚きました。当地では、顧客は神様ではないようです。」

— 日本人移住者は元気でしょうか。

「アルゼンチン社会の中で日系人の人々がまじめな働き者として高い評価を確立されていることを改めて実感しています。一例を挙げれば、9月28日に盛大にオープンした今年のエスコバル花祭りの会長は日系人の久木さんです。また、明10月7日にグラン・レックス劇場で開かれるNHKのど自慢大会には3000人余の日系人の人々が集まる予定で、大いに盛り上がることでしょう。因みに、最高齢の参加者は102歳で、ミシオネス州から20数時間バスに乗って来られるそうです！」

— アルゼンチン経済の立て直しや政治指導力の向上についてどう思いますか。

「新任大使にはいささか難しすぎる質問です。と言うのは、この国は大変ユニークで、そのユニークさが良く分からないと政治も経済も理解できないようだからです。滞在40日の印象としては、ヨーロッパの顔をしているがその中身は大分異なり（但し、私の知っているヨーロッパは仏、ベルギー、スイスあたりです。）、また法治より人治の面がかなり強いらしいと言う感じを持ちましたが、どうでしょうか。また、今の政府はかなり優秀な人を集めていると感じています。政策チームとしては相当高い点数を与えられるのではないのでしょうか。政治家間の駆け引きはまだ良く分かりませんが。

(河崎)

## 新駐日アルゼンチン大使内定

新駐日アルゼンチン特命全権大使にアルベルト・E・ハム国際通商・領事担当次官補が内定した。ハムさんは1962年アルゼンチン外務省に入省、イスラエル大使、アイルランド大使を

経て現職に。その間、国連、ユネスコなど国際機構のアルゼンチン代表も歴任。

10月末頃に赴任される模様。1934年ブエノスアイレス生まれ、夫人と3男。

# カミカゼ vs テロ

菊池 寛士

米国での同時多発テロに関連して、9月18日のラ・ナシオン紙に、「カミカゼ」と題する興味深い小論が寄稿されているのでその要約を紹介する。寄稿者ヴィセンテ・マソー (Vicente Massot) は、バイア・ブランカに本拠を置く有力地方日刊紙ヌエヴァ・プロヴィンシア紙の社主兼主筆で、亜国の中道左派を代表するジャーナリスト・政治評論家。かつてカトリック大学政治学部教授。国防次官などを歴任した。多数の著書がある。

「米国の象徴的中枢部を直撃し何千人と言う無実の人命を奪った無差別テロ行為に関連づけて、第二次世界大戦中に名声を博した日本の神風特攻隊とこれらのテロリスタ達を比較する論調がマスコミのスペースを占めつつあるのが見うけられる。同様に、日本海軍航空隊の真珠湾奇襲と今回のツイン・タワー、ペンタゴン自爆攻撃を同列に論じている論調も見られる。然し、これほど真実からかけ離れたお門違いな話はない。

日本と米国間の戦闘は独立主権国家同士のクラシックな戦争中の出来事であった。両国とも持てる力の全てを投入し、すべての局面に

において敵の戦意を喪失させ最後の勝利を収めるべく、武器をかざし、国章・階級章をつけたユニフォームにそれぞれ身を固め、国旗を掲げて闘ったのであった。軍人としての誇り・名誉心が彼らの規律の中心に存し、ゲリラ同士の戦いとは全く無縁なものであった。「カミカゼ」達は、(当時の日本帝国の世界政策に対する我々の見解はどうであれ)、名誉を重んずる日本海軍航空隊のパイロット達であり、無防備な市民を標的にして突っ込むことなど夢にも考えなかったに違いない。戦場における兵士同士の戦闘行為には自ずから規範があることを確信していたからに他ならない。

故に、目的のためには手段を選ばないテロリスト達を「カミカゼ」呼ばわりすることは、価値ある日本の戦士達に対する冒流行為そのものである。「カミカゼ」は正面の敵と刺し違えた。テロリストは無差別な人殺しである。「カミカゼ」は国旗を背に真正面から敵の激しい対空砲火をかいくぐって目的を達成しようとした。テロリストは善良な市民を装い、仮面に隠れて無防備な社会を無差別に襲撃する。名誉 (オナー、Honor) と恐怖 (ホラー、Horror) を混同してはいけない。」

(きくち かんじ 在ブエノスアイレス、エキパルコン社長 元駐アルゼンチン大使館書記官)

## 『日本海海戦 アルゼンチン観戦武官の記録』増刊

3年前、日本アルゼンチン修好100年を記念して日本アルゼンチン協会が発行した『日本海海戦 アルゼンチン観戦武官の記録』が増刊され第2版が10月出版された。

本書は、日本海海戦の時、日本の軍艦「日進」に乗り組んだアルゼンチンの観戦武官ガルシア大佐 (後のアルゼンチン海軍大臣) が、アルゼンチン本国へ提出した報告書を津島勝二さん (当協会員、元二等海佐) が翻訳したもの。

日本海軍の周到な開戦準備から、目の前に見る日本海海戦の死闘、日本海軍将兵の旺盛な士気、日本の愛国心などをつぶさに観察した貴重な記録になっている。

3年前の初版が売り切れたあと、各方面から増刊の要望が寄せられていた。

B6版 315ページ。頒価送料税込み 3000円。

ご希望の方は、日本アルゼンチン協会事務局にお申し込み下さい。

# 日本人と アルゼンチン人

山口 修慶

四月末に、アルゼンチンに行き、いろいろな知識人にインタービューさせていただいた。この国民の気質をユングの気質論に基づいて調べるためである。しかしその時、おやっと思ったことが一つあった。

「VIVOで、のんびり型なんです」とおっしゃる。VIVOとは日本語の「チャッカー」にほぼ相当するらしい。行列に上手に割り込んだり、ワイロをちょっぴりせびったり握らせたり、要領よく少々ずる賢く立ち回り、人を騙すこともある。そしてあまり頑張らない。「それでいて普通は憎めないところがある」というのである。

もちろん、この国の人もそれでいいとは考えていない。政治が腐敗し、経済が停滞する原因の一つがここにあると思っている。

その話を聞いているうちに、一つの謎が解けてきた。「なぜ、アルゼンチン人は昔から、日本をあんなにも尊敬するのか」ということである。

## チャッカー型とシッカー型

アルゼンチンは、資源や気候や広さでは、世界でも最も恵まれた国の一つで、経済大国となるための条件はすべて整っている。しかし、このVIVOがアキレス腱になってそれを阻んでいると考えられている。ところが、この国の人たちの目に映った日本人移民は、その逆で、正直で働き者だ。そこから「日本人を見習え、そうすれば、この国はきっと良い国になる」ということになった。

ユング流に言えば、VIVOは正に外向感覚型の特徴であり、くそ真面目は内向感覚型の特徴であって、二つのタイプは相互補完的な関係になるからである。そして今回のインタビューでその実例をたくさん手に入れることが出来た。二三ご紹介すると、

拾ったものはポケットへ

A氏はあるとき5000ペソを拾った。平均月収が500ペソの頃である。すぐにポリスに会って「警察署はどこか」と尋ねると、「そんなことしたって、絶対に持ち主には返りませんよ。みな、署員のポケットに収まるだけだ。君が拾ったんだろう？ 君のものさ」「そうはいかん。わたしの物でないから取るわけにはいかん」「そんなら、いい方法教えてやろうか。半分こしよう」「ばか！ 何で俺がお前にやらなければならないんだ。拾ったのは俺だぞ！」「お前が知らずに警察にもっていったら、警察官の懐に入るところを、お前の懐に入るようにしてやったじゃないか。教授代だ」「俺が拾ったんだから、全部俺のものだ！」「お前は優等生だな。ずいぶん早くアルゼンチン人になったなあ」と最後は誉められてしまった。

日本人が立派だからこそ、ワイロを取ってやるんだ

A氏はまた、スピード違反で捕まったが、ポリスはワイロをくれという。お金を持っていなかったから、「今日のところは罰金をつけといてくれ」というと、「自分は毎日この時間にここに立っているから、ついでのとときにでも、持ってきてくれればいい」という。「でもわたしが帰ってこなかったらどうする？」「いや、お前は日本人だろう？ 日本人は絶対に嘘をつかぬ立派な国民なんだ」。そういわれるとA氏はドロロンするわけにはいかない。持っていくと、「ホーレ。おれが信じたとおりの日本人は正直なんだ」「でも、日本人の美德をエサにワイロをとるとはけしからんじゃないか」というと「日本人が立派だからこそ、こうして罰金より安い金で助けてやっているんだ。これがヨーロッパ人だったら絶対に容赦せんぞ。ばっちり罰金を取ってやる！」

盗んでまで返済するとは見上げたものだ

しかし、日本人だって泥棒する者がいた。あるとき日本人がその親友から借金したが、親友同士だったので、ちょいちょい遊びに行っていた。ある日、机の上に札束が放置されていたので、彼はそこから借金分だけ抜き取って、翌日友人に返した。当然すぐバレて警察に訴

えられたというわけだ。領事館から頼まれて、B氏が警察に事実確認に行ったところ、「もう釈放した」という。そしてお誉めの言葉までいただいた。「日本人はやはり偉い。大したものだ。泥棒してまで金を返そうとする責任感は見上げたものだ！アルゼンチン人にはそんなの一人もおらんよ。もしも、彼のようなチャンスに恵まれたら、金は一部でなく全部盗んだ上に、借金は相変わらず返さなかつたらうさ」

#### 売春婦からも絶賛される日本人

ある日本人の花屋さんが、ブエノスに来るときちょっとなじみの商売女と遊んでいた。ある時、お金がなかったので、「今日は金がないからまたにする」というと「いいのよ。お金なんか次回にくるときで。遊んでおいき」という。彼は数日後に花束をそえてお金を持ってきた。女は後で人に語っていたそうである。「日本人は世界に冠たる国民よ。こんな人種はほかにはいない。もしも、こんなことをヨーロッパ人にしてやったら、二度とあたしの前には現れっこないよ。ところが日本人は花束まで添えてくれた。一番嬉しかったのはあたしを商品としてではなく、人間として認めてくれていることだった。こんな立派な国民はどこにあるかい」と。政治家の外交的美辞麗句とは違い、商売女の言葉には絶対の重みがある。

#### 偉大な先輩たち

この影には先輩移民たちの涙ぐましい努力があった。最初から日本人の名誉にかけても、よき市民となろうとした。洗濯屋が増えたのも、最初の人たちが、お金がポケットに入っていれば必ず持ち主に返し、ボタンが外れてればそれをつけ、ほころびは修繕し、忘れ物はちゃんととっておいた。これはVIVOのカルチャーではありえないことだった。それで一躍評判になり、日本人の洗濯屋に注文が殺到し、洗濯屋が急増したというわけである。

入植するときも、アルゼンチン人の領域を脅かさないう気を配り、見捨てられた土地を開墾してそこを発展させた。金がたまって、「アルゼンチンのおかげで、今日あるのだからその感謝の印に」と、道路の建設や学校の建設

など、地域の振興事業のために進んで寄付をした。だから日本人様々となった。

#### 歴史の手本

アルゼンチン人の信用を勝ち得たもう一つの理由はロシアやアメリカを相手に戦い、敗戦後は廃墟から経済大国にのし上がったことであつた。強大なロシアに戦をいどむ日本は彼らの目には巨人ゴリアテに立ち向かうダヴィデに映つた。それで、当時世界で最長射程距離を誇る最新鋭の戦艦二隻を日本に安く売り渡し、それが日本艦隊の先端と後端について大勝利に貢献したのである。また、常々アメリカの強引さに反感をつのらせていたアルゼンチンは、小国日本がアメリカに立ち向かう姿を見て感心し、終戦直前までアメリカに抵抗して日本に宣戦布告をしなかつた。

#### 日出る国の生徒よ

日本語紙「ラプラタ報知」の編集主幹、高木一臣氏の次の話は心を打つ。「私は、スペイン語を学ぶため夜間小学校に通つたが、歴史の先生は、いつも授業のおさらいのため、生徒の一人を前に呼んで質問していた。ある日私が呼ばれた。ところが『日出る国の生徒よ、前に出なさい』という。「先生、そんな呼び方はやめて下さい。日本は戦争に負けたんです。太陽は落ちたんです」というと、「君は間違っている。日本が『日出る国』と言われるのはなぜか。それは、アジアの国の中で最初に西洋文明を取り入れ、五大強国の仲間入りをするとともに、<東洋文明と西洋文明という全く異質の二つの文明を統合して世界文明をつくりあげる能力>を持っていることを示した唯一の国だからだ。戦争に強いなどということは大したことではない。二つの対立する文明を統合するということこそ大したことなのだ。それは日本人にしか出来ない。だから君は胸を張って『俺は日出る国の生徒だ』と云え」というんです。泣きましたよ。偉い先生がいるもんだと思いました。こんな先生は日本にもいないと思つた。」

(やまぐち しゅうけい 当協会員、心理学者、文学博士、著書多数。近く「ユング心理学が解き明かす世界諸国の国民性」を出版予定)

# ボルヘス・芥川龍之介・夢・図書館

河崎 勲

ボルヘス会（会長 野谷文昭教授）の第2回大会は、研究者や愛好家80人が参加して9月22日（土）東京の立教大学で開かれた。そのごく一部をご紹介します。（他への引用はご遠慮願います）

## 田中和生さん（文芸批評家）

「芥川龍之介の作品の中で、ボルヘスの言っているようなことに出くわす。『さまよえるユダヤ人』は、ユダヤ人をめぐる世界普遍の歴史とその伝説が日本にはないという狭間で、芥川が架空の書物を捏造して考えを展開する。他のいくつかの短編にも捏造書物が出てくる。これはボルヘスが使った手法だ。」「ボルヘスは、「おのおのの作家は先駆者の文学者を作りだす」と言っている。芥川は、ボルヘスよりも70年ぐらい前の人で、自然主義、私小説の観点から読まれてきたが、実はヨーロッパ的な思想を持つ文学ではないだろうか。世界を更新して行くものを考える作家だったのかも知れない。ボルヘスを読み、芥川を読むとそういう風に考えられる」

## 多和田葉子さん

（1993年芥川賞受賞作家、ハンブルク在住）

「一読者としてボルヘスのどこに関心があるかといえば、＜夢という辞典＞をあげる。ボルヘスは、夢の話を集めた（『夢の本』）。だがそれは、体系化を目指す学者のような収集ではなく、何の目的もなく集めることに熱中し、中毒になったコレクターとしての収集だった。」

「ボルヘスの夢の収集場所は常に図書館だった。ジャングルの中で特定の昆虫を探すよりもいかに楽に収集できるかのように思いがちだが、そうではない。図書館は、決して探す本が見つからないように整理してあるし、分類には夢の項目などはない。小説などは全部読まなくてはならない。夢は、論語にもカフカにも出てくる。図書館はジャングルで、ジャングルが図書館なのだ。」

「コレクターとしてのボルヘスは、作者ではなく編集者ではないかという問いがある。だが、集めることと創作することはそんなに違うのだろうか。物を書く人間は、無意識のうちに直感的に常に何かを集めているはずだ。」

「ボルヘスがコレクターとして集めた夢は全体のつながりがない。ただ一つの共通点は、これらの夢が書物の中にあるということだけだ。読み終わるとますます「夢」が分からなくなる。ジャングルの中に置かれたように自分でそれを探しつかない。」

「ボルヘスの作品では、夢と現実が融合するという終わり方をする。ボストン郊外のチャールズ川のベンチで出会った年取った自分と若い自分は、どちらの自分が夢を見ているのか（『砂の本』）。ボルヘスは誰でも一生に一度は自分に遭うのだと言っている。」

「夢は何のためにあるのか。夢を見るから疲れるのか。夢は、脳を違うやり方で酷使して脳を休めようとしているのか。目覚めてから思い出して夢を書き止めることはできない。夢は起きてパッチリ目の覚めた状態で見る必要があるのではないか。」

## ボルヘスと翻訳についての討論から

討論者：鼓 直（スペイン・ラテン文学教授）、中村健二（英文学教授）、土岐恒二（英文学教授）、野谷文昭（ラテン文学教授）（いずれも翻訳書多数）

「ボルヘスは、10世紀のアンゲロサクソンの詩を近代英語に翻訳したテニソンの詩は原詩を越える美しさと評したが、ボードレールの『悪の華』のゲオルゲ訳は、言葉を置き換えただけと酷評している。」（土岐恒二さん）「逐語訳には、読者に違和感による衝撃を与えたり、原文にない美をもたらすという効果もあるとしながらも、ボルヘスは、「スペイン語をラテン系の言葉に置き換えるだけの英訳は誤訳だ」と言っている。」（中村健二さん）■

## 桃太郎の里に ひびくタンゴ

いまから74年前に録音されたタンゴ“El Amanecer(夜明け)”が会場にひびいた。タンゴのSPレコード(disco de pasta!)をなんと6000枚も収集している藤岡末男さんが、発会式にふさわしいものと、この曲を手回しの蓄音器で出席者一同に聞かせてくれた。

9月24日、岡山駅前ワシントンホテルプラザ11F会場に江田五月参院議員ほか35名が集い、「岡山・アルゼンチン友好親善サロン会議」が結成された。田原清美準備委員長(桃太郎プラザ社長、元岡山県議、当協会会員)の経過報告について役員選出、今後の運営方針の説明があった。来賓としてアルゼンチン大使館よりルビオ・レイナ総領事が流暢な日本語で祝辞をのべ、協会からは野村専務理事が日本とアルゼンチンの友好100年の歴史について解説した。

席上、協会から童話「桃太郎」スペイン語訳の小冊子が贈呈された。これは協会のスペイン語講座中級受講生全員によるスペイン語翻訳の結晶で、本邦最初の試みとして注目された。

午後には古瀬陽子さんが主宰する本場のタンゴ・ダンスと演奏“Tango Volviendo”が岡山市立



(右から) 田原委員長、野村専務理事、ルビオ・レイナ総領事夫妻、江田参院議員

市民文化ホールで満員の聴衆を酔わせた。とりわけタンゴのリズムをきざんだ「荒城の月」や地元杉本礼子さん(当協会会員)主宰の“チェ・タンゴ・クラブ”のメンバーによるダンスに一段と拍手が高まった。

岡山のタンゴ熱はすさまじい。

サロン会議発足の前夜祭には100名を超す参加者で賑わった。Tango Volviendo 一行の紹介と実演、そして団員と参加者のダンスで盛り上がった。しかし当夜のハイライトは、アルゼンチン大使館からの贈り物がレイナ総領事夫人から、当選者5名に手渡されたときだった。

それは30の背番号でTAKAHARAの名前が入ったボカ・ジュニアのユニフォームだった。

## 熱唱 母の国のうた

～ブエノスで「NHKのど自慢」～  
藤井正夫

ブエノスアイレスの中心オペリスクから繁華街コリエンテス通りを2ブロック下がったグラン・レックス劇場で10月7日、「NHKのど自慢」が開かれた。海外で開かれるのど自慢はブラジルから始まり、ペルー、ハワイに続いて4回目。当日は小雨降る中、開演の4時間も前から行列ができ、アルゼンチン全国から集まった3000人余りの日

系人が南米一といわれる大劇場を埋めた。

この日は、前日の予選に出た210組の中から選ばれた25組が出場したが、アルゼンチン生まれの若者たちが日本の歌をあまりにも上手に歌うのに驚かされた。それも日本語を話せない10代の三世・四世で、むしろ日本には行ったこともなく、まして演歌などまったく無縁の世界だろう。それが日本のことや男女の機微を知り尽くしたかのように情感を込めて巧みに演歌を歌う。日本から歌謡番組のビデオや歌のCDを取り寄せて懸命に練習したのだろうが、中にはアルゼンチン人の男女もいて、素人離れした歌いっぷりにゲストの鳥羽一郎さんや坂本冬美さんさえ驚嘆するほどの歌い手も少なくなかった。観客も半数以上

# 夢はパンパを駆け めぐる

## 高野太郎さん追悼

福島 穆

かねてから入院加療中の太郎ちゃんが10月4日に亡くなったと、協会の河崎さんから電話があった。茫然自失。読みかけの本を脇に置いたまま数時間が過ぎた。

今から30年程も前に、当時出来たばかりの新宿西口高層三角ビルの地下に、確か「パンパ」というアルゼンチン・レストランがあって、客寄せにアルゼンチン音楽をやっていました。タンゴでスペイン語の習得を目指したボクはこの店に通いアルゼンチンの雰囲気浸っていたのです。ここで、当時駆け出し(?)の太郎さんと刀根さんに最初に出会ったのでした。そのうち今度、六本木に「カンデラリア」という店を持つことになりましたとのご案内をいただいて今度は六本木に通うことになりました。1975年2月3日が開店の日でした。六本木は今とは全く違って当時は静かな所でした。以来、26年以上にわたりわが国にアルゼンチンの音楽を広める傍ら「カンデラリア」が民間外交に果たした役割はまことに大なるものがあります。

日本を訪れた中南米の多くの音楽家はもとよ

りが10代、20代の若者たちで、出場者に熱狂的な声援を送り場内の雰囲気盛り上げた。

アルゼンチンには各地域に日系の若者たちが主催するクラブがあり、毎年クラブ対抗の歌合戦や歌謡大会が開かれている。今回ののど自慢にもそれらの大会に活躍した巧者が出場したわけだ。むろん若者だけではなく、鐘を鳴らした年配者やアルゼンチン人もいた。だが入賞者の大半は15歳から22~3歳の三世・四世で、チャンピオンに選ばれたのは17歳の女の子だった。

(収録番組は、10月14日(日)日本で全国放送された。)

(ふじい まさお、在ブエノスアイレスジャーナリスト)



ギター詩人 高野太郎氏

り、歴代のアルゼンチン大使始め多くの外交官の方々、ビジネスマン、など枚挙に暇がありません。特に1979年には国賓として訪日したビデラ大統領が三越に出店した「カンデラリア」に立ち寄り大きな興味を示し、その功績を称えて「ガウチョ」の絵画を贈られたそうで、これはずっと店の壁にかかっていました。

今みたいに簡単に海外旅行の出来ない頃、太郎ちゃんは真っ直ぐにはアルゼンチンに行けず、船やバスを乗り継いだり、ヒッチハイクをしたり、途中強盗に襲われ危ない目に遭ったりしながら、本当に命からがらブエノスアイレスにたどり着いたそうです。ガウチョ魂を持った吟遊詩人(パジャドル)としての高野太郎はこのときに養われたに違いありません。パジャドルとはギター片手に一宿一飯を求めてパンパを馬に乗って旅をする即興詩人とでもいったらよいでしょうか。この精神が彼を支えるとともに彼の演奏を聴く方々の魅力になったのではないのでしょうか。

近頃ではメネム前大統領から馬を贈られ日本に連れてきて千葉の方にアルゼンチン村を作る計画を進めていましたが志半ばで終わってしまいました。さぞ無念だったでしょう。

ボクは今、太郎ちゃんが尊敬していた、アタウアルパ・ユパンキの詩の一節を思い出しています。

年月が私を消してしまう前に  
一つだけしたいことがある  
昔を訪ねるかのように  
あのパンパに馬を馳せてみたい

太郎さんのあのパンパの上に広がる大空のような魂は今頃あの果てしないパンパの何処を、さまよっているだろうか? アディオス

# 催し物

【🎵】は当協会員特別割引

## ◆ 講演会「アルゼンチン音楽と ピアソラ」

ポリー・フェルマン（ピアノ・元駐日亜国大使夫人）  
とダニエル・ピネリ（バンドネオン）が実演を交え  
てアルゼンチン音楽とピアソラの世界を語る講演会

11月4日(日)14:30～16:00

立教大学(池袋)5号館 5324 教室 入場無料

予約不要

問合せ：立教大学ラテンアメリカ研究所

(TEL:03-3985-2578)

月水金土 10:00-13:15/14:15-17:00)

## ◆ フェスティバル マルタ・ アルゲリッチ

— Punto de encuentro Buenos Aires 2001

11月10日(土)～11月17日(土)

テアトロ・コロン(ブエノスアイレス)

詳細は <http://www.teatrocolon.org.ar/>

## ◆ 池田光夫タンゴ生活50周年記念 リサイタル

池田光夫とロス・アミーゴス

ダンス：シンゴ&アスカ ゲスト：菅原洋一

11月28日(水)18:30～

川崎市麻生市民館大ホール

小田急線・新百合ヶ丘駅前

4,000円

【🎵 会員は10%割引】

問合せ：アミーゴス友の会(TEL:03-3489-2519)



## CDプレゼントのお知らせ

日本語でタンゴ・フォルクローレなどを歌っている、みさとわこさん(協会員)が8月15日にファーストアルバム「想いのとどく日」をキングレコードよりリリース。このCDを会員5名にプレゼントして下さるそうです。希望の方は葉書に住所、氏名、TEL、を明記の上、協会宛ご応募ください。メ切は11月30日。発送をもって発表に代えます。

## ◆ 公開講演会 「現代のラテンアメリカ」

12月8日(土)15:00～18:00

立教大学(池袋)8号館 8202 教室

入場無料 予約不要

1. 「新しい語学番組の模索」

講師：荒木庸子(NHK教育番組ディレクター)

2. 「エルネスト・チェ・ゲバラ再考」

講師：後藤政子(神奈川大学助教授)

問合せ：立教大学ラテンアメリカ研究所

(TEL:03-3985-2578)

月水金土 10:00-13:15/14:15-17:00)

## ◆ みさとわこライブコンサート

12月12日(水) 19:45～6,000円

(フリードリンク・オードブル付)

赤坂バルバラ(TEL:03-3586-4484)

地下鉄赤坂見附駅1分 コーヒーコーナー裏

## 33号タンゴ復刻版CD当選者

的場博子理事(マトバ真珠店社長)より寄贈のタンゴ復刻版CDの抽選会が9月20日の編集会議席上で行われました。当選者は次の方々です。(敬称略)

奥村 清彦 小林 謙一 蟹江 丈夫  
荻原 正弘 村山 勝

## 日本アルゼンチン協会会報34号 2001年10月20日発行

発行人 野村秀治

編集長 河崎 勲

発行所 社団法人 日本アルゼンチン協会  
105-0004 東京都港区新橋1-17-1  
新幸ビル

電話：03-3501-4684

FAX：03-3595-3932

Eメール : argentina@nifty.com

印刷所 株式会社 アイデア・インスティテュート